令和８年度　清瀬市立清瀬第五中学校　校長室たより　10月ノ２号　発行日 R8,10,15　　五中 HP

ひまわりノ畑

教育目標　思索・和敬・剛健
学校スローガン　笑顔と あいさつ そして ありがとう

http://www.kiyose.ed.jp/kiyosedaigotyuugakkou/index.htm

天下無奏 ～頂き目指せ！最高の輝き～

■10 月 10 日はやはり、特異日だった。



10 月 10 日はその昔、東京オリンピック（1964 年）の開会式だったことを記念して、「体育の日」という名称の祝日でした。現在は移動祝日（10 月第２月曜日）となり、名称も「スポーツの日」に改称されました。

当時の旧国立競技場に屋根はなく、開会式の雨が心配され、「特異日」の一つである 10 月 10 日が選ばれたそうです。気象用語で、晴れや雨などの確率が高い日を「特異日」と呼びますが、この日は「雨が降らない特異日」だったそうで、実際に開会式前日は、台風接近のため雨空でしたが、当日は抜けるような秋晴れとなり、ブルーインパルスが、会場上空に五輪のマークをスモークで描いたそうです。

今年の１０月１０日の早朝も、合唱コンクールのスローガン「天下無奏　～頂き目指せ！最高の輝き～」を想起させるほど、見事な秋晴れ、特に空気が澄んでいた明け方は、紫がかった群青色の空でした。

２週間前の土曜日、３年生が京都に居たことが、ずいぶん前のように感じてしまうほど、どの学年も、充実した時間を過ごしてくれたように思います。朝、昼、放課後と一日中歌声が響いていました。

１年生の元気で明るい歌声、２年生の踊るように楽しげな歌声、そして波紋のように校舎内を広がる３年生の歌声と、学年が一つ異なるだけで、これほど歌声の質が違うのは、中学生時代の加速度的な成長によるものだろうと常々思っています。声変わりなど、子供から大人への一歩手前、高校生になるともう成人に近くなるので、ほんとギリギリ、今のこの時だけの大切な歌声、青さが残る瑞々しい歌声は、大人な私たちにはもう出せないので、いつもうらやましく思います。そして、３年間で驚くほど成長するのは身体だけでなく、心もそうです。学校生活や学校外の活動での経験、授業や行事等で学んだ知識、本やメディアで知ったこと、世の中の起きた出来事など積み重なって、感性が磨かれていると感じます。３年生が選んだ自由曲はどれも、すこし早いのですが、３年間の学生生活があってこそ、歌える曲のように思います。

当日は、土曜日のご多用の中、教育長の坂田先生、清瀬第十小学校長の鈴木先生をはじめとする来賓の皆様、そして 460 名を超える保護者の皆様にご来場を頂き、また十小音楽科の依田先生には、特別審査員をお願いいたしました。皆様には心より感謝を申し上げます。おかげ様で来場家庭率は 82.2%でした。

合唱コンクールの日は、１年生の元気にあふれた合唱、２年生の人数の少なさを感じずに音色のバランスを感じる合唱、３年生の音圧はもとより表現に驚かされた合唱と、３つの学年、それぞれが一段ずつ、着実に成長している姿をステージで披露し、特に３年生は、頂きを目指して輝く姿で、１・２年生に、目標となる方向を示してくれました。本当に、五中の生徒は素敵だなと、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

スローガン「天下無奏」の通り、今年の合唱コンクールも、五中にとって、特異日の一つとなりました。

※右上 QR コードより、３年全員合唱「大地讃頌」動画をご覧下さい。限定公開、公開期間 10/31 まで　https://youtu.be/0lj4CJV53N8

《最優秀賞》３年Ｂ組、２年Ａ組、１年Ｂ組　※演奏順

演奏曲１学年　課題曲「夢は大空を駆ける」自由曲 Ｃ組「大切なもの」、Ａ組「変わらないもの」、Ｂ組「僕らの奇跡」
２学年　課題曲「時の旅人」　自由曲 Ｃ組「心の瞳」、　Ｂ組「輝くために」、　Ａ組「時を越えて」
３学年　課題曲「大地讃頌」　自由曲 Ｂ組「青い鳥」、　Ａ組「証」、　Ｃ組「群青」

《指揮者賞》　３B 課題曲指揮者、　３C 自由曲指揮者、　２A 課題曲指揮者、　１B 自由曲指揮者

※学校配布版ではお名前をご紹介しています。

※清瀬市教育委員会 教育長 坂田 先生からのメッセージを頂きましたので、ご紹介させて頂きます。



清瀬第五中学校合唱コンクールで全力を出し切った諸君へ

教育長の坂田です。諸君のおかげで素晴らしき一日を過ごすことができた。

なぜ、私はそのように感じたのか。その理由をすべて挙げるとするとその暇はないが、あえて一つここに記すとすれば、諸君が私を始めとする会場に足を運んだすべての人々の心に「未来への希望」を抱かせてくれたことだ。

今、社会は大きく変わろうとしている。いやすでに変わりつつある。その変化は「激動」「不透明」「不確実」「予測困難」等という言葉で表現されている。これまで「当たり前」だったことを疑ったり、モノの考え方や見方を柔軟に変化させたり、これまでになかった新しい価値を創り出したりしなければ生き抜いていくことができない時代に突入していくということだ。

そんな社会を生きていくために何よりも必要となる力は何だろう。私は「困難を乗り越え力強く一歩を踏み出すエネルギー」だと考えている。例え解決が困難と思われるような高き壁が目の前に現れたとしても、例え一度や二度しくじったとしても、例え積み重ねた努力が報われないことがあったとしても、例え己の力のなさに打ちひしがれたとしても、それでも立ち上がり、もう一度挑戦し、再び倒れてもまた挑戦し…、そんな力が激動の未来を生き抜くエネルギーになると共に、そんな力を持つ者が未来の清瀬を、日本を、世界を創り上げていくのだ。

アークホールのステージ上ではいずれの学年も、いずれの学級も、そしていずれの生徒もその力がみなぎっていた。生きる喜びとエネルギーに溢れていた。より高みを目指して挑戦する意欲に満ちていた。それは「諸君が社会の中心となる１０年後、２０年後の社会はきっと素晴らしきものになるであろう」…、という未来への「希望」に他ならないのだ。

夢や希望、エネルギーや意欲は「伝播」する。諸君も経験したことがあるのではなかろうか。夢を語る友と話をしているとなぜか力がみなぎってくることを。部活動で力の限りプレーをする仲間を観て「負けてたまたるか！」と感じたことを。全力で一つのことに打ち込む姿から次の試合への希望が湧いて生きたことを…。

そうなんだ。諸君の「全力」の姿は、客席に、いや社会全体に「全力で生きる尊さ」を思い起こさせてくれたのだ。明日へのエネルギーと活力を宿してくれたのだ。もうわかったと思う。諸君が全力で物事に打ち込む姿こそが社会を変える最も大きな力になるということが。諸君の生き生きと歌う表情が社会を明るくするということが。諸君のより良きものを目指す挑戦心が、社会に活力を与えるということが…。



こんな素晴らしき合唱コンクールを自分たちの力で創り上げた五中生たちよ。これからも五中生としての誇りをもって胸を張って生きていってほしい。社会を創る一員として力一杯人生を歩んでいってほしい。

未来の清瀬を、日本を、世界を諸君に任せる。頼んだぞ。

～～

<u>**※各学年へのメッセージも頂きました。**</u>

１年生にとっては初めての合唱コンクール。この行事で、小学校との一番の違いを実感することができたのではなかろうか。その違いとは「自主性」。自分たちの力で目標に向かってひとつのものを作り上げる経験だ。

練習の過程では、自分たちの力で解決しなければならない様々な困難や乗り越えなければならない壁があったはずだ。

やる気がある者とない者との間で喧嘩になったこと。自分たちが考えた合唱に近づけるために悩んだこと。歌詞が持つメッセージを話し合ったり、それを伝えるための工夫を議論したりしたこと…、このような困難や苦労、乗り越えなければならない壁を自分たちの力で一つ一つ超えていくことこそ「人としての成長」であり、中学校時代でもっとも育て上げてほしい力なのだ。

中学生としてまた大きな一歩を踏み出した１年生諸君。練習の過程で「自分達の力」で困難をクリアしていった体験は確かに合唱に現れていた。この自信を胸に、２，３年生の先輩の歌声に、取り組みに一歩でも近づけるよう今後ますます努力を重ねて欲しい。

私たち人間は沢山の喜びからできている。また、沢山の悲しみからも、沢山の感動からも、沢山の冷たさや温かさからも、沢山の失敗や挫折からもできている。そして何よりも沢山の人達の支えによって生きている。これが「人生」というもの。

２年生諸君の合唱はこれらの「たくさん」が込められた素敵なものだった。友だちと何かを成し遂げてともに喜び合った経験や、裏切ったり裏切られたりした悲しい経験、何かに挑戦した時に必死に応援してくれた先生や親への温かさや、がんばったけれど挫折してしまった時の悔しさ等、いくつもの想いが、知らず知らずのうちに合唱の中に込められていたのである。

音楽はその人の生き様を映し出すといわれる。自分が生きてきた時間の中で手に入れることができたたくさんの経験や、そこに生まれた想いや願いが「音」や「曲」の中に映し出されるからである。心から幸せな経験した人は、喜びにあふれた光り輝くような音楽を作り出すことができ、人の温かさを感じ取れる人は、心温まる素敵な音楽を作り出すことができる。そしてその演奏を聴いた人たちもまた、自分の幸せを再度振り返れたり、温かな気持ちで人と接することができるようになったりする。

２年生諸君はきっとこんな素敵な音楽と末永き友達になってくれるだろう…、そんな想いを抱くことができた演奏だった。

３年生にとって最後の合唱コンクール。この行事は諸君に何を与えてくれたのだろう。ステージ上での演奏時間はたったの８分間。ボーっとしていたら８分間度はあっという間に過ぎ去ってしまう。まさに「たかが８分間」。

しかし諸君はこの８分間のためにこれまでたくさんの時間を送ってきた。勉強や遊び等の自分自身のために時間を使いたかった人もいただろうし、できればはずしたくない用事があった人もいたかもしれない。しかしそれを我慢したり、やりくりを付けたりしながら「たかが８分間」のためにその何十倍もの時間を使ってきた。その結果、諸君は大変大きな宝を得ることができた。ものごとをやり遂げることができたという宝であり、力いっぱい自分たちの表現ができたという宝であり、努力の尊さを知るという宝であり、友だちの新しい一面を発見できたという宝であり、満足感、充実感という宝であり、感動という宝であり…。このように諸君は「されど８分間」を送ることができたのである。

「時間は私たちがもつ唯一共通のものである」という言葉がある。どんな金持ちも、貧乏な人も、年寄りも若人も、日本人も外国人も一日は２４時間しかない。この２４時間を「たかが」にするか「されど」にするかはその人次第なのである。「されど」の時間を積み重ねることこそ、自らの人生を充実させることになることをきっと学んでくれたはずだ。素敵な演奏とともに過ごした８分間を決して忘れないでほしい。

あと６ヶ月で中学校を巣立っていく３年生諸君。この合唱コンクールで見せた真剣な取り組み、全力での取組を残りの６ヶ月間の生活でも挑戦して欲しいと心から願う。受験という大きな困難に向かって全力で取り組んでいく人が多いことと思う。中にはもっと先の将来を見据えて、自分自身に挑戦していく人もいるかもしれない。いずれにしても、真剣で全力を傾けた取組からは、結果がどうであれ、大きな達成感や成就感、感動が生まれる。そしてこのような６ヶ月が送れたときこそ、本当の意味で合唱祭での成果が生かされ、胸を張って「清瀬第五中学校の卒業生だ」といえるときなのかもしれない。

素晴らしき合唱コンクールだった。この場に立ち会えたことに心から感謝したい。ありがとう五中生諸君！

令和８年１０月１０日　清瀬市教育長　坂田　篤

※各学級の合唱へのご感想やコメントも頂いております。ありがとうございます。